

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



一年間、ご支援・ご協力を
有り難うございました！

これはきつと珍しいでしょう。花壇の「越冬サルビア」（石川命名）がまだ頑張っています。一方、各園庭では、もうエジプトエンドウ豆の花が咲いています。「今年はエンドウ豆ご飯、早めにしてないといけないかもね。」なんて、先生方の話がすでに聞こえてきます。

思い起こせば、昨年「豆ご飯」の頃は、まだ入園・進級したばかりで、新しい友だちや先生との新しい生活に慣れることに必死だったのでしょうか。子どもたちは、緊張した表情で登園していました。そして保護者の方々も、どこか不安そうな様子でした。あれから一年。子どもたちの遊ぶ姿や表情の変化、その成長ぶりには目を見張るものがあります。特にここ一ヶ月は、職員皆で、子どもたちの成長したところを見つけては喜び合っていました。

「保育道」（石川命名）にはこれで満足ということがありません。ご期待に十分添えたかはわかりませんが、保護者の皆様の力強いご支援があったからこそその一年であったことは間違いありません。改めて、心より感謝申し上げますとともに、今後一層の精進をお約束します。

節目として、「元気な命」を一旦ここでお返しすることになります。親子で、新しい学年への期待を膨らませ、心身共にベストなコンディションで新学期を迎えられるよう、家庭でのご支援を宜しくお願ひします。一年間有り難うございました。



「ジャックの時計」修理と側溝の蓋の設置完了！

後援会のご支援で、壊れていた時計の修理が出来ました！時計の部品やからくり人形は、全て手作りで作り直したとのこと。子どもたちも大喜びです。再来年度は90周年の行事があります。きっと懐かしんで頂けると思います。

また、本園に着任してずっと気になっていた園庭周囲の側溝の蓋を、ケガのリスクを訴え、ようやく大学に設置していただきました！



さようなら！池邊先生

三学期の間、子どもたちの健康と安全を守って下さった養護教諭の池邊先生が、十五日までで附属幼稚園を去られます。保健室での様子は、子どもたちも先生も、まるでずっと一緒だったかのような自然な雰囲気です。見ていてほっこりするような関係性をすぐに築いて下さいました。子どもたちの性格を即座に読み取って、その子に合わせた対応を取るところもさすがだと学ばせて頂きました。修了式の後、お別れをしました。短い間でしたが、子どもたちの優しい印象が刻みつけられていたように思います。本当に有り難うございました。

